

令和2年度 大学・短期大学入学式理事長告辞

(令和2年5月8日オンライン入学式用)

新緑が一段と色鮮やかに映えるなか、緊張感冷めやらぬゴールデンウィークも終え、ようやく本日、入学の日を迎えることができました。 新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本来ならば、東日本国際大学附属昌平中学校・高等学校の新入生も含め、ご来賓やご家族の皆様、教職員が一堂に会し、アリオスで、4月の6日に合同入学式を盛大に開催する運びとなっていました。ご承知のように新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態によりまして、ほぼ1か月遅れで、しかもこのような形での開催となりましたことは、誠に残念というほかありません。ご家族の皆様、ご来賓とともに新入生の晴れの門出をお祝いできないことは、私たちにとりましても断腸の思いであります。

しかしながら、このような事態は私たちにとりましては決して初めての経験ではありません。9年前の3・11東日本大震災が起きた際も、入学式は1か月延期を余儀なくされました。

きょうと一日違いの5月7日に入学式が行われたのです。今はウィルスの感染ですが、当時は原発事故による放射能の汚染、そしてそれに伴う風評被害という、同じように目に見えない敵と私たちは必死に闘っていました。留学生はいったん母国に無事帰国させたものの、果たして日本に戻ってくるかどうか分からない状況でありました。ところが、原発の風評被害にもかかわらず、ほとんどの留学生が本学に戻ってきたのです。なかには家族の反対を振り切って戻ってきた留学生も決して少なくありませんでした。この時の驚きと感動、そして感謝の思いはいまなお私の胸中に深く刻まれています。

さて、新入生の皆さんにどうしても伝えておかねばならないのは、本学の建学の精神です。それは、孔子の『論語』に記される「義を行い以て其の道に達す」という一節にあります。「義を行う」とは、分かり易く言えば「人のために行動すること」「人のために尽くす行動」のことです。今回の新型コロナウイルスの感染拡大を防ごうというなかにあっても、「自分さえよければいい」といった自分本位の身勝手な行動というものがいかに危険であり、社会の安全を脅かすものとなるかを明白に示してくれました。自身は他者とともにあるという共生感覚、共に生きるという感覚を失っては、自身のみならず社会全体、ひいては国そのものを破滅に追いやりかねないのです。

新型コロナウイルスの感染者は約80%が無症状かもしくは中・軽症であると言われています。ですから、あるウィルス学の専門家はこう言っておられました。「手洗いの励行など自分が感染しないように努力するのは当然のこととして、人に感染させないように努力するだけで、感染のリスクを軽減させることができる」と。まさしく自分だけのためではなく、人のために行動することが今、私たちに求められているのだと思います。

『論語』に「義を見て為さざるは勇なきなり」という有名な言葉があります。

どのように振る舞い、どのように行動することが人間として正しい道であるのか――そのことを分かっているながら、自分の利益や欲望、保身のために正しく行動しようとしな。そういう人を勇気のない人間というのです。

私は、震災という前代未聞の経験を通して、苦難に負けない力、負けじ魂を

かんなん

鍛えることがいかに大事であるかを痛切に感じました。艱難汝を玉にす」ということわざもあるように、苦難や試練を乗り越えてこそ人間としての確かな成長があります。そして、苦難に打ち勝つ人間力、それを一言で言い表すと「勇気」なのです。義を行う、正しいことを実践するにも勇気が必要なのです。カラオケにでも行ってわーっとみんなで歌いたい、でも今はこういうときだから我慢しよう。これも勇気がなければできないことです。

新型コロナウイルスとの闘いは、簡単には終わらないでしょう。皆さんは入学前から思うようにならない生活を強いられ、「こんなはずではなかった」と嘆いている人がいるかも知れません。しかし、感染の拡大はいずれ必ず終息します。その日に向けて一人ひとりが自身の課題と真剣に向き合い、知恵を絞り、成長の日々を重ねて行っていただきたい。

今回の困難に直面した経験は、これからの皆さんの人生にとって必ず貴重な財産となるに違いありません。そのためにも「ピンチこそチャンス」の負けじ魂を燃やし、今後の学生生活、勉学にスポーツに打ち込みながら、友人との交流を思う存分に楽しみ、実り豊かなものにしていくよう願ひ、私の告辞いたします。

入学、誠におめでとうございました。

令和2年5月8日

学校法人昌平覺 理事長
緑川 浩司